

昭和42年までの八中・小山台高校陸上競技班の活躍

- 昭和6年 佐藤正氏（中5回）が関東大会にて走幅跳で優勝（6m59）、全国大会にて走幅跳と三段跳で入賞。専門は短距離で100m11秒1は40年間破られていない。高等師範体育科でも活躍（創立50周年記念誌）
佐藤正氏（中5回）が関東中等学校陸上競技選手権大会（神宮外苑）にて走幅跳で優勝、400mリレー（保木利世氏、安達晴雄氏、土岐氏健児、佐藤正氏：全員が中5回）で5位。佐藤氏は全国大会にて走幅跳6位。府立園芸学校との対校戦開催（創立60周年記念誌）。
- 昭和10年 東京大会総合2位（創立50周年記念誌）
- 昭和13年 東京大会総合2位。大貫明神氏（中12回）が日独伊青少年対抗陸上競技大会にて三段跳で2位（13m10）（創立50周年記念誌）
- 昭和14年 東京総合6位。大室暉氏（中14回）が棒高跳で優勝（3m30）、千葉義夫氏（中14回）が走高跳で優勝（1m73）。両名とも大会新記録（創立50周年記念誌）
- 昭和24年 大竹二郎氏（高1回）が走幅跳で関東大会出場。東京新人戦総合優勝（創立50周年記念誌）
- 昭和25年 東京総合5位。望木忠雄氏（高3回）が400mと800mで、伊藤博氏（高3回、筆者注：「伊藤」は旧姓で菊桜クラブ名簿では大野博氏）が走幅跳と三段跳で、金指幸明氏（高4回）が走高跳で、全国大会（宇都宮）に出場（創立50周年記念誌）
- 昭和27年 第5回全国大会（松本）にて、大日向恒男氏、早川守土史氏（以上、高5回）、秋山忠彦氏、佐分利一昭氏、大橋勲氏（以上、高6回）にて800mリレーで準決勝進出（創立60周年記念誌）
800mリレーのメンバーは大日向恒男氏、早川守土史氏、佐分利一昭氏、秋山忠彦氏、野田氏（筆者注：菊桜クラブの名簿に記載なし）、大橋勲氏（会報29号、高6回の大橋勲氏の「五六七会」より）
- 昭和27年（筆者注：年数の記載がなく推定）
内田澄子氏（高5回）が走高跳で、長谷川明氏（高5回）が走幅跳で、二名の全国大会出場は創立以来唯一である（筆者注：お二人は女子部員一期生なので、女性として初の大会出場との意味か）（創立50周年記念誌）
- 昭和28年 6月6日～7日に神宮外苑で開催された東京大会にて19点で男子総合3位（会報29号、榎木先生調べ）
大橋勲氏（高6回）が200m、800mリレーで全国大会（横浜）に出場（創立50周年記念誌）

大橋勲氏（高6回）が第6回全国大会にて100mで予選敗退、200mで準決勝敗退。当初開催予定の熊本水前寺が水害で横浜に急遽変更（創立60周年記念誌）

昭和29年 5月15日～16日に神宮外苑で開催された東京大会にて14点で男子総合5位（会報29号、榎木先生調べ）

熊本水前寺で開催された全国大会に中根博史氏（高7回）と犬塚皓弼（高7回）が110mHで出場。なお、犬塚氏は、アキレス腱を痛めていた飯沼寛氏（高7回）の名前で都大会から出場し、他人名義での出場（会報22号、高5回の大日向恒夫氏の「嘘の様な本当の話」より）

山下晃司氏、三村潤三氏、中根博史氏、佐分利清隆（以上、高7回）が800mリレーで全国大会出場（会報24号、高7回の犬塚皓弼氏の「思いでに懸った虹を追ってみる」より）」